

アデノシン三リン酸製剤

処方箋医薬品  
(注意—医師等の処方箋により使用すること)

**トリノシン<sup>®</sup>S 注射液 10mg**  
**トリノシン<sup>®</sup>S 注射液 20mg**  
**Trinosin<sup>®</sup>Sinj.**

(アデノシン三リン酸二ナトリウム注射液)

貯 法：冷所保存

使用期限：外箱に表示の使用期限内に使用すること。  
(使用期限内であっても開封後はなるべく速やかに使用すること。)

	10mg	20mg
承認番号	13507KUZ10875	13507KUZ10875
薬価収載	1961年12月	
販売開始	1961年7月	
再評価結果	1999年6月	

**【禁忌 (次の患者には投与しないこと)】**

脳出血直後の患者 [脳血管拡張により、再出血など出血を増悪させるおそれがある。]

**【使用上の注意】\*\***

**【組成・性状】**

販売名	トリノシンS 注射液10mg (1管2mL中)	トリノシンS 注射液20mg (1管2mL中)
成分・ 含量	アデノシン三リン酸 二ナトリウム水和物 10mg	アデノシン三リン酸 二ナトリウム水和物 20mg
添加物	グリシン 1mg ベンジルアルコール 20mg 炭酸ナトリウム水和物 適量 炭酸水素ナトリウム 適量 塩化ナトリウム 1mg	グリシン 1mg ベンジルアルコール 20mg 炭酸ナトリウム水和物 適量 炭酸水素ナトリウム 適量
性状	無色澄明な水性注射液	
pH	8.5~9.5	
浸透圧比 (生理食塩 液に対す る比)	約1	

**【効能・効果】**

- 下記疾患に伴う諸症状の改善  
頭部外傷後遺症
- 心不全
- 筋ジストロフィー症及びその類縁疾患
- 急性灰白髄炎
- 脳性小児麻痺(弛緩型)
- 進行性脊髄性筋萎縮症及びその類似疾患
- 調節性眼精疲労における調節機能の安定化
- 耳鳴・難聴
- 消化管機能低下のみられる慢性胃炎
- 慢性肝疾患における肝機能の改善

**【用法・用量】**

1. アデノシン三リン酸二ナトリウム水和物として、通常1回5~40mgを1日1~2回、等張ないし高張ブドウ糖注射液に溶解して、徐々に静脈内注射する。
2. アデノシン三リン酸二ナトリウム水和物として、通常1回40~80mgを1日1回、5%ブドウ糖注射液200~500mLに溶解し、30~60分かけて点滴静脈内注射する。
3. アデノシン三リン酸二ナトリウム水和物として、通常1回5~40mgを1日1~2回筋肉内又は皮下注射する。

**1. 相互作用**

**併用注意 (併用に注意すること)**

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ジピリダモール	ジピリダモールはATP分解物であるアデノシンの血中濃度を上昇させ、心臓血管に対する作用を増強するとの報告があるため、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	ジピリダモールのアデノシン取り込み抑制作用により、ATP分解物であるアデノシンの血中濃度が上昇する。

**2. 副作用**

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

**(1) 重大な副作用**

ショック様症状 (頻度不明) があらわれることがあるので胸内苦悶、悪心、顔面潮紅、咳、吃逆、熱感等があらわれた場合には投与を中止すること。

**(2) その他の副作用**

	頻度不明
消化器	悪心・嘔吐、食欲不振
循環器	一過性の動悸
精神神経系	頭痛

**3. 高齢者への投与**

一般に高齢者では生理機能が低下しているため減量するなど注意すること。

**4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与**

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。  
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

**\*\*5. 小児等への投与**

低出生体重児、新生児に使用するには十分注意すること。

[外国において、ベンジルアルコールの静脈内大量投与 (99~234mg/kg) により、中毒症状 (あえぎ呼吸、アシドーシス、痙攣等) が低出生体重児に発現したとの報告がある。本剤は添加物としてベンジルアルコールを含有している。]

## 6. 適用上の注意

### (1) 静脈内注射時：

ゆっくり（10mgを1～2分で）静脈内に投与すること。

（急速に投与すると、一過性の胸内苦悶、悪心、頭痛、顔面潮紅、咳、吃逆、発熱等があらわれることがある。）

### (2) 筋肉内注射時：

筋肉内注射にあたっては、組織・神経等への影響を避けるため、下記の点に配慮すること。

1) 神経走行部位を避けるよう注意すること。

2) 繰り返し注射する場合には、例えば左右交互に注射するなど、注射部位をかえて行うこと。

なお、乳児・幼児・小児には連用しないことが望ましい。

3) 注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合は、直ちに針を抜き、部位をかえて注射すること。

### (3) アンプルカット時：

本剤はアンプルカット時にガラス微小片混入の少ないワンポイントカットアンプルを使用しているため、ヤスリを用いずアンプル頭部のマークの反対方向に折り取ること。

なお、アンプルカット時にはカット部分をエタノール綿等で清拭し、カットすることが望ましい。

## 7. その他の注意

本剤を急速静注した場合に気管支痙攣を誘発したとの報告がある。

### 【薬効薬理】

アデノシン三リン酸(ATP)は生体組織内における高エネルギー源として、筋肉の収縮機構に関与するなど重要な生理作用を営むとともに下記のような薬理作用が認められている。

○ネコを用いた試験では脳血管拡張作用が認められ、ヒヒを用いた試験では脳血流量の増加作用及び脳組織の酸素消費量の増加作用が認められている。<sup>1)</sup>

○イヌを用いた試験では冠血管及び末梢血管を拡張させ、冠血流量と心拍出量を増加させる作用が認められている。<sup>2)</sup>

### 【有効成分に関する理化学的知見】

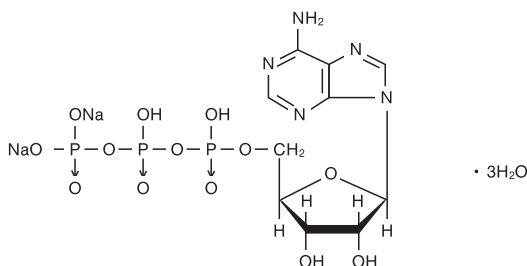
一般名：アデノシン三リン酸二ナトリウム水和物  
(Adenosine Triphosphate Disodium Hydrate)

化学名：Adenosine 5'- (disodium triphosphate) trihydrate

分子式： $C_{10}H_{14}N_5Na_2O_{13}P_3 \cdot 3H_2O$

分子量：605.19

構造式：



性状：アデノシン三リン酸二ナトリウム水和物は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、わずかに酸味がある。水に溶けやすく、エタノール（95）又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

### 【取扱い上の注意】

#### 安定性試験

最終包装製品を用いた長期保存試験（15℃、3年）の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、トリノシンS注射液10mg、20mgは冷所において3年間安定であることが確認された。<sup>3)</sup>

### 【包装】

トリノシンS注射液10mg（2mL） 50管

トリノシンS注射液20mg（2mL） 50管

### 【主要文献】

1) Forrester, T. et al. : J. Physiol., 296, 343(1979)

2) Rowe, G. G. et al. : Am. Heart J., 64, 228(1962)

3) トーアエイヨー社内資料：長期保存試験

### 【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】\*

主要文献に記載の社内資料につきましても、下記にご請求下さい。

トーアエイヨー株式会社 信頼性保証部  
〒330-0834 さいたま市大宮区天沼町2-3-30  
\*電話 0120-387-999 048-648-1070



製造販売

トーアエイヨー株式会社

福島県福島市飯坂町湯野字田中1番地

\*



販売

アステラス製薬株式会社

東京都中央区日本橋本町2丁目5番1号